

会 議 録 要 旨

会 議 名		平成29年度 第2回藤沢市下水道運営審議会	
開 催 日 時		2017年(平成29年)6月29日(木)午後2時～午後3時25分	
開 催 場 所		藤沢商工会館ミナパーク502会議室	傍聴者数 0人
出席者	会 長	神田 務	
	委 員	井上 美鈴・小野島 真・齋藤 力良・川田 兼子 木村 安代・永島 柳子・大岩 英一・須田 千亜希・布川 晃	
	事 務 局	鈴木下水道部長 下水道総務課：武井参事・齋藤主幹・近藤主幹・指旗補佐・佐藤補佐・林補佐・小川補佐 小野寺専任補佐・矢口・村田・金子・吉原・野本・三澤 下水道管路課：坂口補佐・坪井補佐・鈴木補佐・山口 下水道施設課：竹村参事・真間主幹・一ノ瀬補佐・関野 浅井辻堂浄化センター長・加藤大清水浄化センター長	
議題及び公開・非公開の別		1 合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議について 2 「湘南ふじさわ下水道ビジョン」第2期アクションプログラムの策定について 3 その他 (1) 江の島弁天橋圧送管の漏水事故について (2) 山野神雨水貯留管築造工事の状況について <div style="text-align: right;">(すべて公開)</div>	
非公開の理由			
審議等の概要	《議題》 1 合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議(第2回)について 第3期変更計画案について説明。		
審議等の概要	【質疑】 ① 今回の変更計画が実現できないことがないのか、どの程度まで計画の検討が済んでいるのか。 《回答》汚濁負荷の対策手法については、国が合流式下水道緊急改善事業を創設した際、新たな技術開発がなされており、その導入を検討しておりました。しかし既存の施設にはなじまなかったため、現状の状況から踏まえて雨水貯留池の新設による対策であれば目標が達成できると考えております。 ② 当初の計画では、雨水貯留池を作る計画はなかったのか。 《回答》当初計画の対策のひとつとして雨水貯留池の計画はありましたが、コスト面から低い方を優先しておりました。 ③ 辻堂浄化センターに雨水貯留池を作る計画は、費用対効果から見るとトータル的にコストが低くよいと思います。今回計画から除外された鶴沼南部貯留管は、現実的にできなかったということでしょうか。 《回答》計画はあるが実施には至っていないという現実です。汚れを取り除くという合流式下水道の目的として位置づけておりましたが、既成市街地のため工事が難しい現実でございました。そのため、効果的な方法での見直しについて今回、皆様に諮らせていただきました。		
	2 「湘南ふじさわ下水道ビジョン」第2期アクションプログラムの策定について 第1期アクションプログラムの評価及び第2期アクションプログラムの実施方針について説明。		
	【質疑】 ④ 資料2の裏面の第1期アクションプログラムの評価について、歳出規模や、何回研修会を行ったかなど実績を附属としていただいたほうがわかりやすいのでは。 《回答》平成28年度決算の整理が終わり次第、費用等の関連づけを行いお示しします。 ⑤ 資料2の裏面で、耐震化マンホール数の計画値30箇所に対し、実績値3箇所、評価が「計画通り実施」となっていますが、どのようなことか。 《回答》地震対策として浮上防止対策をするマンホール数のうち、液状化の際に浮き上がり量を計算し、浮上が大きい箇所対策工事が必要なマンホールが3箇所となったものです。資料についてわかりやすく表現するよう努めてまいります。		

⑥下水道整備の目的は、下水道法の内水氾濫と公衆衛生の2つです。資料2の裏面、公衆衛生からみると普及率となりますが、計画値95%で実績値96%となっていることから達成ができています。内水氾濫については床上浸水となりますが、目標が21%となっているが、できるだけ早く100%にすることが下水道法の目的だと考えます。床上浸水は、河川が要因なのか下水が要因なのか、または両方に問題があるのか解析し、100%にする指標を作るべきではないか。

《回答》当初、ビジョンで設定した重点対策地区は13地区あり、重点地区の床上浸水被害（内水氾濫）戸数は240戸ありました。平成42年度までの目標値は、内水に起因する浸水被害で下水道で対策すべきものとして、内水、外水と分けて検討をしております。資料の表現をわかりやすくしてまいります。

3 その他

(1) 江の島弁天橋圧送管の漏水事故について

5月25日及び6月14日に発生した江の島圧送管の漏水事故について、事故の概要、対応について報告。

【質疑】

⑦圧送管の材質は何か。

《回答》鋼管を使用しています。

【意見】塩害があるため、ダグタイル鋳鉄管が適切ではないか。

⑧以前、台船が衝突したこともあり弁天橋自体は大丈夫なのか。

《回答》橋の老朽化もございますが、それ以上に管渠の老朽化が進んでいる状況です。オリンピックの開催を控え、より一層、安全面を強化するため、緊急的な措置と来年度の取替えをまず優先してまいります。今後、さまざまな課題を整理し、2条化も目標として進めてまいります。

(2) 山野神雨水貯留管築造工事の状況について

山野神雨水貯留管築造工事の状況報告。8月下旬にシールド機の発進予定で、8月21日に安全祈願発進式を執り行う予定。また、10月上旬にはシールド機の屈伸が進み、下水道工事のPRも踏まえ現場見学会を開催予定。

⑨貯留管の直径は何メートルか。

《回答》直径2.6メートル、延長は600メートルで、貯留量は学校の25メートルプールで約8杯（約3,000トン）です。

⑩貯留管で貯めた水を川に放流した場合、川が吸収できるのか。

《回答》山野神雨水貯留管築造工事は河川と一体的な整備が必要と考えております。工事を行っている善行山野神地区からの雨水は白旗川に流れ込んでおり、藤沢市が準用河川として、白旗川の整備を進めておりますが、まだ上流の整備が終わっていない状況となっております。また、貯留管の整備箇所では、先行してボックスカルバートの整備も行っており、かなりの水が貯留できるので浸水被害が軽減できると考えており、今後、下流の幹線の改修や河川改修の整備が進みますと1時間当たり50ミリの降雨に対して、対処できるものと考えております。

<日程変更のお知らせ>

次回、第3回下水道運営審議会は、8月31日（木）14時から開催。

そ の 他